釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和６年（2024年）４月８日発行　VOL ２

エージェンシー

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

本日から令和６年度の学校づくりが本格的に始まりました。まずは新２・３学年の生徒たちが無事に春季休業を過ごし、元気な姿で学校に戻ってきてくれたことに嬉しさを感じるとともにホッとしています。始業式の挨拶でステージ上から生徒たちの姿をながめましたが、進級するとこれだけ表情が変わるんだと実感したところです。そして、教職員も個性豊かなスタッフが加わってくれました。今年度、本校がどのように変容していくのか、とても楽しみです。

さて、経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）は、2030年において望まれる社会のビジョンや、そのビジョンを実現する主体として求められる生徒像とコンピテンシー（資質・能力）について、「ラーニング・コンパス 2030」レポートとしてまとめました。その中に、中核的な概念とし「スチューデント・エージェンシー」という言葉が度々登場します。その意味は、「変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」ですが、この中でも特に重要なのは、「変化」と「行動」であると言われています。

学校行事を例にして考えてみます。「学校行事にしっかり参加する」。大事なことですが、ここで止まってしまっては単なる受け身です。

学校行事には目的があるはずです。どのような目的のために、この学校行事は行われるのか。その目的に照らして、学校行事の内容は適切か。その目的のためなら、違う内容の方がよいのではないか。仮にそうなら、内容を変えられないか。誰が、どうすれば変えられるのか。自分たちにできることがあるなら、自分たちでよりよい内容にしていけばいいじゃないか。

「スチューデント・エージェンシー」とは、そういうことまで考え、行動し、実際に何かを変える力です。「面倒くさいな」と否定して、押さえ付けるのではなく、それを認め、励まし、伸ばしていく。　学校行事を例にしましたが、日常の授業も同じです。教師の指導にただ従うのではなく、本時で目指す資質・能力を全員が獲得するために、必要なら教師に指導方法を提案してもいいのです。「エージェンシー」、今年度の本校の教育においてキーワードにしたいと思います。

【転入教職員】

〇小　原　　憲　教頭（釧路町立別保中学校から）
〇田　村　　純　教諭（釧路市立景雲中学校から）
〇中　野　花　梨　教諭（新採用）
〇髙　橋　乃枝瑠　教諭（東京都新宿区立西戸山中学校から）
〇渡　部　道　博　さん（釧路市立新陽小学校から）※用務員